

在シドニー総領事通信

第 27 回 北部準州と日本：ビジネスと交流の深化と拡大に向けて

令和 2 年（2020 年）11 月 6 日

コロナ対策が効果を上げ、州境規制が緩和されています。皆さんは州をまたいでの旅行や出張はされましたでしょうか。私は、10 月 9 日にシドニー大都市圏から北部準州に 14 日間の強制隔離なしで入れるようになったので、早速 10 月 25 日から 28 日までダーウィンを訪問してきました。現在日豪企業が連携して立ち上げを準備中の海老養殖事業の予定地を視察し、北部準州政府関係者や日豪交流関係者との意見交換も行いました。

北部準州は、人口こそ約 24 万 6 千人で国内全人口の約 1 %ですが、面積では 135 万 km²と西オーストラリア州、クイーンズランド州に次ぎ国内第 3 位です。また、第二次大戦期のダーウィン空爆とその後の和解の取組、2018 年の安倍総理訪問とイクシス LNG プロジェクトの操業開始など、日本と深い関わりがあります。

本年 8 月には北部準州議会選挙が行われ、2016 年 8 月からガナー首席大臣が率いる労働党政権が全 25 議席中 14 議席を獲得して勝利しました。2 期目に入った直後の訪問となり、今後の関係強化を話し合う上で良いタイミングでした。

今回の総領事通信では、日本と北部準州の協力・交流関係の 4 本柱である（1）経済とビジネス、（2）政治・安全保障協力、（3）文化と交流、（4）平和と和解の各々について、訪問を踏まえての最新状況を報告するとともに、更なる関係の深化と拡大の方策について、皆様と一緒に考えていければ幸いです。



海老養殖事業視察でガナー首席大臣（向かって左から４番目）、
マニソン副首席大臣兼農業大臣（向かって右から３番目）他と
（2020 年 10 月 26 日、北部準州政府提供）

●経済とビジネス

北部準州と日本の関係強化の最重要課題は、2018 年に操業を開始したイクシス LNG プロジェクトに続くビジネスの拡大です。10 月 26 日、ガナー首席大臣、マニソン副首席大臣兼農業大臣と一緒に、ニッスイ（日本水産株式会社）が出資する豪企業シーファームによる海老養殖事業「プロジェクト・シー・ドラゴン」の事業予定地視察を行いました。

この事業は、①ダーウィンの南西約 350 km のレジュン地区に世界最大級の海老養殖池を造成し、②ダーウィンの南西約 50km のバイノー港に建設する海老孵化施設、③レジュン地区の南西約 110km の西オーストラリア州カナナラに建設する海老加工工場と連結させて、市場価値の高いブラックタイガー海老を大量養殖するものです。

第 1 期開発（1,180ha）は既に必要な承認手続を終えており、今後の最終投資決定を経て、早ければ 2023 年初頭に出荷が始まります。

北部準州政府は、この事業を視野に、レジュン地区から西オーストラリア州境に至る道路整備を完工し、ガナー首席大臣とヘリコプターで上空から視察しました。西オーストラリア州政府も、来年州境からカナナラまでの道路を整備予定です。

今回の視察に首席大臣と副首席大臣が揃って同行したことで、北部準州政府の本事業にける意気込みを感じました。また、この機会を捉えて協議も行い、今後の北部準州と日本の協力の方向性を確認することができました。



北部準州政府関係部局との協議
(2020 年 10 月 27 日)

翌 27 日には、北部準州政府関係部局との協議（Government Roundtable）に出席し、今後の北部準州と日本の経済・ビジネス関係強化に向けて包括的な意見交換を行いました。

天然ガスは、INPEX が運営するイクシス LNG に加え、ダーウィン LNG にも日本企業が参画しており、更に内陸部のビータルー盆地の天然ガス開発には一層大きな可能性があります。

農業分野では、既にお話しした海老養殖事業のほか、太陽光エネルギーで生成した水素を利用する農業の実証実験を宮崎大学とアリススプリングスで進めることが検討されています。

観光分野では、ウルルがある北部準州への外国人観光客数は、2019 年には日本人が最多でした。今はコロナの影響を大きく受けていますが、その後の更なる拡大を期待しています。

その他、クリティカルミネラル（レアメタル）の開発や、デジタル分野（海底ケーブル等）、宇宙分野（準天頂衛星）でも協議や連携を進めています。



北部準州議事堂でカービー退役軍人大臣と
(2020 年 10 月 27 日)

●政治・安全保障協力

第二の柱は、要人往来等を通じた政治対話、そして共同訓練等を通じた安全保障面での協力です。ガナー首席大臣は 2016 年の就任以来 2 度訪日しており、2018 年には安倍総理が日本の総理として初めてダーウィンを訪問しました。

10月27日、カービー退役軍人大臣を北部準州議事堂に往訪し、今後の北部準州と日本の関係強化について、幅広い意見交換を行いました。同大臣は内閣改造の前まで第一次産業・資源大臣を務めています。コロナ対策や経済復興など様々な課題や日本への期待について、主要閣僚の一員としての見方を伺うことができ、大変有意義でした。



パーマーストン市のパスコー＝ベル市長、セーカレリCEOと
(2020年10月28日)

●文化と交流

第三の柱は文化と交流です。10月28日、ダーウィン郊外にあるパーマーストン市のパスコー＝ベル市長にご挨拶に伺いました。同市は和歌山県有田川町と姉妹都市で、本年10周年を迎えます。

コロナの影響で本年は中止となりましたが、毎年双方向の中学生交流を行っています。日本の中学生の来訪時には、市議会の議場に案内し、ガウンを羽織り首飾りをつけた正装の市長と記念写真も撮るとのことです。温かい受け入れに感謝を伝えました。



チャールズ・ダーウィン大学のマドックス学長と
(2020年10月27日)

また、北部準州唯一の大学であるチャールズ・ダーウィン大学のマドックス学長にもご挨拶に伺いました。大学に加えて専門学校も統合しており、約2万5千人の学生のうち約2,500人が国外からの留学生です。

現在のところ日本人の学生は少数ですが、京都大学他と交換留学制度を運用しており、本年11月に海外からの受け入れを再開する学生の中には日本人も含まれているとのことでした。

オーストラリア北端の地の利を生かし、東南アジアや太平洋島嶼国を対象とした熱帯医学や災害対応の研究が進んでいるとのことで、日本との連携や交流の可能性を今後探求したいと思います。



北部準州豪日協会（AJANT）役員と
（2020年10月27日）

ダーウィンで日本文化行事を担う北部準州豪日協会（AJANT）の役員の皆様ともお会いしました。同会は本年7月に、在シドニー総領事館と国際交流基金シドニー事務所の協力を得て、子供向けに「魔女の宅急便」の星空映画会を開催しています。

コロナの影響で、例年9月のダーウィン日本祭は本年中止となり、例年10月の日本映画祭は来年2月に延期となりました。その後の文化行事を効果的・効率的に開催していくための準備や方策について、意見交換を行うことができました。

役員の多くは学校やコミュニティセンターでの日本語教育にも携わっています。生徒に自ら関心を持って学習・発表してもらおうための工夫や、幼児への絵本の読み聞かせの重要性などについてもお話を伺い、ダーウィンの日本語教師・日本語教育関係者の強い熱意を感じました。



ダーウィン記念連合教会で藤田ファミリーとのテレビ会議
(2020 年 10 月 25 日)

●平和と和解

第四の柱は平和と和解です。ダーウィンは、太平洋戦争開戦直後の 1942 年 2 月 19 日に日本軍による大規模な空爆を受け、その後も 1943 年 11 月まで 64 回にわたる空爆を受けました。戦後、ダーウィンの湾内での航行を妨げていた沈没船の引き上げ・撤去事業を、藤田サルベージという日本企業が受注し、1959 年から 61 年まで事業を実施しました。同社の藤田柳吾社長は、1960 年のダーウィン連合教会開設時に、沈没船の金属から作られた 77 本の十字架を同教会に寄贈するなど、日豪の和解に尽力しました。

連合教会と藤田社長の家族の交流・往来は今も続いています。10 月 25 日、ダーウィン連合教会を訪問した際、同教会側のアレンジで、藤田社長の次男の藤田銃一郎氏、孫の欣子氏とテレビ会議で初めてお会いすることができました。

また、ダーウィン空爆や日本の伊号第 124 潜水艦のダーウィン沖での撃沈の歴史を研究した現パーマーストン副市長のトム・ルイス氏にも、同日お会いしてお話を伺いました。

ダーウィンの空爆と和解の歴史は、日豪関係の将来にとって重要なものです。本年 8 月にキャンベラで開催された戦後 75 周年全国記念式典のモリソン首相式辞でも、この 77 本の十字架のエピソードが紹介されました。戦後 75 周年の後も、ダーウィンの歴史を末永く協力の礎にしていきたいと思います。



空から見たイクシス LNG プロジェクト陸上プラント施設
(2020 年 10 月 26 日)

●北部準州と日本のビジネスと交流の深化と拡大に向けて

昨年 10 月のシドニー着任以来、ダーウィンを 3 回、アリススプリングスとウルルを 1 回訪問して、日本にとっての北部準州の重要性について理解を深めることができました。

北部準州は、人口こそ少ないものの、天然ガスをはじめ農業や鉱物資源、更にはデジタルや宇宙など、日本が今後更に発展する上で大きなビジネスの潜在性があります。北部準州も、日本とのビジネス関係の強化を強く望んでいます。それだけでなく、安全保障や文化交流、そして歴史や和解といった面でも、日本と北部準州は深いつながりがあります。

一連の訪問を通じて、これらの協力や交流を推進してきた多くの皆様とお会いして、更なる関係強化に向けての熱意を感じました。北部準州を担当する総領事として、皆様の強い思いを実現し、北部準州と日本の関係が一層深化し拡大するよう最大限努力する所存です。今後とも、当館から支援できることがありましたら、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

海老養殖事業（プロジェクト・シー・ドラゴン）（ニッスイプレスリリース）

<https://www.nissui.co.jp/news/20180522.html>

海老養殖事業（プロジェクト・シー・ドラゴン）（シーファーム社・英語）

<https://seafarms.com.au/about-project-sea-dragon/>

パーマーストン市と和歌山県有田川町の姉妹都市交流

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/sister_city.html#wakayama

北部準州豪日協会

<https://www.ajant.org/>

藤田サルベージとダーウィンの歴史

<https://fujita-salvage.com/>
<https://ameblo.jp/ajantdarwin/entry-12266298450.html>

ダーウィンと日本（総領事通信第3回）

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/about_consul_generals_newsletter_archive_no3.html

ダーウィンと日本（その2）：ダーウィン空爆からイクシス LNG プロジェクトへ
（総領事通信第10回）

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/about_consul_generals_newsletter_archive_no10.html

アリススプリングスとウルル：「コロナ後」に向けて（総領事通信第 16 回）
https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/document/CGKiya_16newsJ.pdf

戦後 75 周年：敵から友へ（総領事通信第 22 回）
https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/document/CGKiya_22newsJ.pdf

（以上）